

●意見聴取結果（2回目）

「7 課題」について

1 地域の伝統文化や文化財

（齊藤委員）

資料②による実績で、「施策 1 民俗芸能の継承支援」に関して申し上げるとすれば、助成金によって「芸能保存団体の活動維持、活性化に繋がっている」という成果を上げていますが、私の知る限りでは助成金（用具修理なども含めて）によってそれらが継続して繋がっているという実態はあまりありません。少なくとも短期、その時だけはなんとか維持継承はできて、現状は活性化されたなどという団体はほとんどみられないようです。つまり第 2 期の成果はかなり限定的であったといわざるえませんが、しかもこの助成金にはかなりの制約があり、一定範囲の効果しかもっていないようです。今度のビジョンでは、もっと本質的な（実情実態をきちんと調査して、何が衰退の原因になっているのかを徹底的に調査研究すべきと思いますが、これは全く県ではしていませんね）、恐らく経済的な問題以前にかなり精神的な心意面での問題があるはず（私の予測です）。助成金に対しても、その後の検証（どのように活用されて、その効果は、など）は全くないようですから、保存団体によっては貰いっぱなし（語弊ある言い方ですが）が多いというもののようです。

もう一つ、これは、私が以前から申し上げていることですが、「文化財保護」という施策のうち、文化財指定をしてさえすれば保護に繋がるとの考え方だけではないとはみられますが、民俗芸能の指定文化財に対しては、今までほとんど保護の施策はないようです。その例の一つが秋田県指定民俗文化財「秋田万歳」でしょう。これからどのように保護（少子高齢化・保存継承・後継者育成など）していくのか、真摯な対応が必要と思われます。ですから、この種の研究は一つの施策に上げるべきではないか。是非、具体的な方策を盛り込んでください。

「8 第3期ビジョンの基本目標と基本方針」について

（齊藤委員）

結局は第 2 期施策への取り組みの成果・課題（資料①）によるところに示されている「課題」にこそ取り組むべきです。こんなにはっきりとした課題を見つけているのですから、まずはこれらに取り組んでいくビジョンが第 3 期となっていくのではないのでしょうか。

「その他」

（齊藤委員）

第一回の会議が流会となり、大変残念でした。書面での意見交換の結果を見て、皆様ご

もっともな意見、疑問で、いちいち感心しております。これらを踏まえてビジョンを策定されることを切に願います。それにしても、資料が後から後から出てくるのには驚いています。「第3期あきた文化振興ビジョンについて」（7月21日）資料も、どうして事前に（第一回会議の前）に披見できないものだったのか。また、意見等の結果を戴いたとき（8月5日）に出された資料①、②などは、第2期施策の実績であるから、実に重要だと感じています。事前にほしかったところです。後出し資料の意味が分かりません。

⇒（事務局から）

資料を事前に配布することができず、大変申し訳ございませんでした。

第2回の会合以降は、資料を事前に配布させていただきます。

（齊藤委員）

このビジョンについての表題を、どうして「あきた」という字を平仮名にしているのか。わかりやすい、親しみやすい、では意味が通りません。「秋田」という表記は歴史的でもあり文化的でもあるはず。平仮名表記では秋田の文化そのものを曖昧にしていると向けられかねません。

（齊藤委員）

第2回の会合は8月25日に予定されているようですが、私は出席できません。その日は授業日で、全く出席はかないません。全委員の都合が合う日、ということはないかもしれませんが、予め何日かの都合日を全委員に聞いてみるという方法もあるのではないのでしょうか（私の所属する文化財保護審議委員会などでは少なくともそうしている例が多い）。今後の対応に期待をしています。

⇒（事務局から）

第1回及び第2回の会合については、会場確保、予約等の関係から事前に開催日を事務局で設定させていただきましたが、第3回の会合につきましては、事前に全委員のご都合を確認の上、開催日を設定したいと考えております。